

行政に頼らない

「むら」づくり

柳谷町内会長 豊重 哲郎（鹿児島県鹿屋市串良町）



地域おこしの最大の活力源は「人」である。「行政に頼らない」というのは、集落でできることは集落で汗することであり、行政を否定しているのではない。行政はパートナーでいい。

減り続けていた人口は、この2年で31人増え、314人に。自主財源を確保し、「いずれは自分のことだよ」と、意識の底上げには感動しかない。感動と感謝、自主総参加型の活気あふれる「むら」づく



さつまいも植え作業



土着菌製造作業

りには命令型は禁句である。

高齢化の進む柳谷町内会（通称…やねだん）には、活用されなくなった財産が眠っている。田畑は休遊地になり、空き家は廃屋になっていく。遊休農地でサツマイモ栽培、芋焼酎やねだんの商品開発、家畜のふん尿悪臭防止に土着菌（微生物）培養販売、主婦達が経営する「そば処未来館」は年間4千人を超える視察来訪者で大にぎわいである。自分から地域再生をする

ためには、永遠のボランティアだけでは絶対に「駄目」である。町内会の自主財源が必要である。

年間収入約7百万円、毎年2百万円程度の余剰金を生み、06年には全世帯に1万円ボーナスを支

給、みなし法人として納税もしている。元々、町内会は行政の駐在員役である。収益事業はあくまでも手段。最近では、「利益配分はしないで町内会の公益サービスに使って。」という住民の要望には感動するばかりである。余剰金は、高齢者へのシルバーカーや介護のための緊急警報装置の設置、小中学生の学ぶ寺子屋や環境整備にも充当されている。

空き家は「迎賓館」と称し、芸術家を招き、写真家、画家、陶芸家、ガラス工芸家、ブロンズ像の作家ら7人が移住し、空き店舗や牛小屋はギャラリーに変身。子供やお年寄りの交流を通じて地域にも溶け込み、文化向上に貢献している。

地域活性化には良きリーダーが不可欠。そして、活動の基本は土台づくりである。土台とは「円満な和」であり、私助の「輪」でもある。集落民一人ひとりがレギュラーであり、補欠なんて存在しない。やねだんは、リーダーの忍耐と勇気による2年間の土台づくりに成功し、10年目にして「笑い」と快話に万歳である。

地域の財産は住民の円満な輪であり、自己満足でなく他人がどれだけ満足できるかが大事。そして自主財源。行政に“おんぶにだっこ”では長続きもしないし楽しくもない。集落自体がブランドになれば最高に面白い。

故郷創世塾

07年にスタートしたリーダー養成のための「故郷創世塾」も既に5回目を終了し、塾卒者69人が全国各地で活躍中である。地域づくりには良きリーダーの存在が不可欠。地域づくりは、地域住民を主人公に、ポリシーを描くこと。情熱のあるリーダーには必ず人がつく。論ずるより、リーダーが率先垂範してみせることが大切との持論のもと、活動を続ける柳



寺子屋



シルバーカー貸与19台



迎賓館第一号館

ダーへのありがたみ、羨望の表現と思つて前進あるのみ。このときこそ忍耐と勇氣。顔を上げて微笑で闊歩。こんなリーダーこそ、真のリーダーである。一度きりの人生だから、己に感動、社会に貢献であれ。くたびれた地域には夢も希望も湧いて出ない。老害はだめ。地位を譲る勇氣とは、責任ある後継者に満足し、ボランティア活動の一員に戻れる安堵感のリーダーで大満足。

谷町内会を舞台に3泊4日の熱烈な研修が行われる。遠くは北海道、三重県からも参加。集落あげての歓迎である。毎年5月、8月、11月の年3回、今後も地域振興に携わる熱血漢溢れる者を対象に、明日への地域リーダー養成で社会に貢献である。

リーダーよ、覚悟しろ

企画・実践したことに對する評価は甘んじて受ける。満点のリーダーなんか、どの社会にもいない。人間は誠に勝手なもので、人の批評を平気でする。特に地域活動では、参加もしないのに不平不満の論者がどこでも点在している。相手にしないわけにはいかないが、気にしないこと。多勢に無勢、良くあること。リー



視察来訪者